



水だより

No.84
2017年(平成29年)2月

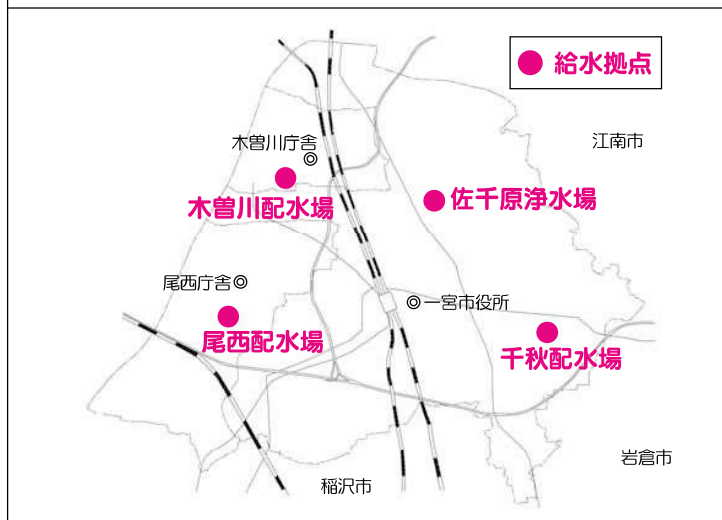
発行：一宮市上下水道部 一宮市本町2丁目5番6号

災害時の給水拠点

◇災害が発生したとき、生活する上で問題となるのが「飲料水の確保」になります。

給水拠点	給水拠点からの飲料水	給水地区
佐千原浄水場		宮西、神山、大志、向山、大和
千秋配水場		貴船、富士、西成、丹陽、千秋
尾西配水場		奥、萩原、起、小信中島、三条、大徳、朝日、開明
木曽川配水場		葉栗、浅井、北方、今伊勢、木曽川

給水拠点の場所



災害時の応急給水量



必要最小限の飲料水として、災害発生から3日間は、**一人1日3ℓ程度**を目標にしています。4日目以降は、経過日数によって段階的に増やします。

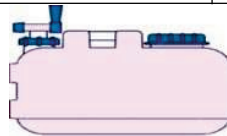
災害対策用機器

給水車



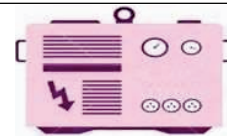
佐千原浄水場に配備しています。給水活動に迅速に対応することができます。

給水タンク



トラック等に積載し、避難所等の所要地点で給水ができます。

発電機



飲料水を供給するために必要な非常用電源として活躍する機械で、運搬もできます。

【一宮市公式ウェブサイト】

暮らしの情報>水道>水道施設>災害対策用機器



お問い合わせ先

《佐千原浄水場 ☎71-4175》

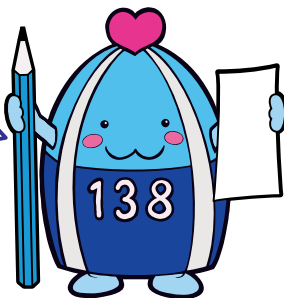
「じゃ口から 安心とどけ 未来まで」 「下水道 水がいのからの 守り神」

この「水だより」には再生紙を使用しています。

平成27年度水道事業及び下水道事業会計決算から

水道事業では、平成27年度も、水道を利用される皆さまからいただいた水道料金等を財源とし、老朽化した施設の修繕、改良、更新や、危機管理対策等を進めながら、安全で良質な水の安定供給に努めてきました。また、下水道事業においても、下水道使用料、交付金等を財源とし、管渠(かんきょ)や施設の整備を進めながら、健康で快適な生活環境の確保に努めてきました。

事業内容と財政状況について、収益的収支(施設の維持管理に関するもの)と、資本的収支(施設の建設、整備に関するもの)とに区分し、下記のとおり報告させていただきます。

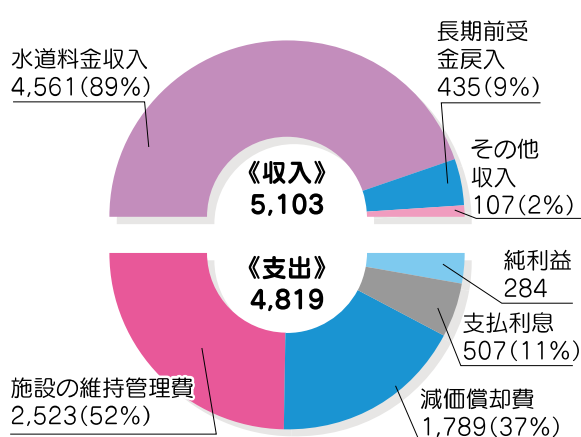


水道の財政

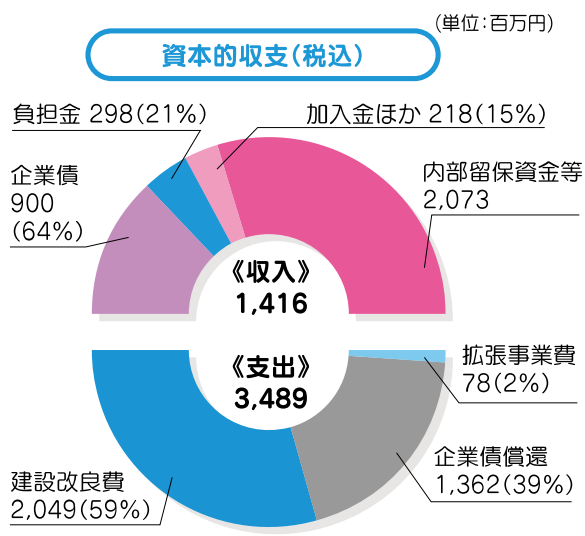
建設改良事業

- 三条地内ほか3地区で配水管を布設したほか、西五城地内、北今地内ほか60地区で老朽管等の布設替を実施し、漏水、出水不良等の解消に努めました。そのうち、西五城地内ほかでは地震に強い管に入れ替えました。
- 設備の老朽化に伴い、千秋配水場1号配水流量計の改良等を行いました。
- 大規模な地震災害に備え、佐千原浄水場第2ポンプ棟の基本計画を作成するとともに、建設用地取得の目途をつけました。
- アセットマネジメントによる資産管理システムを構築しました。

収益的収支(税抜)



資本的収支(税込)



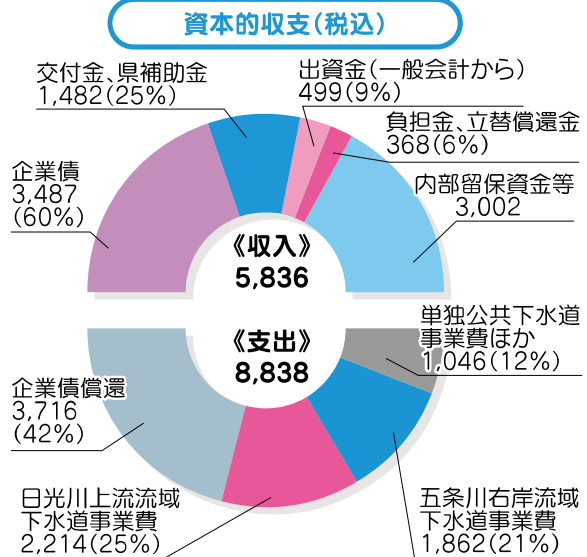
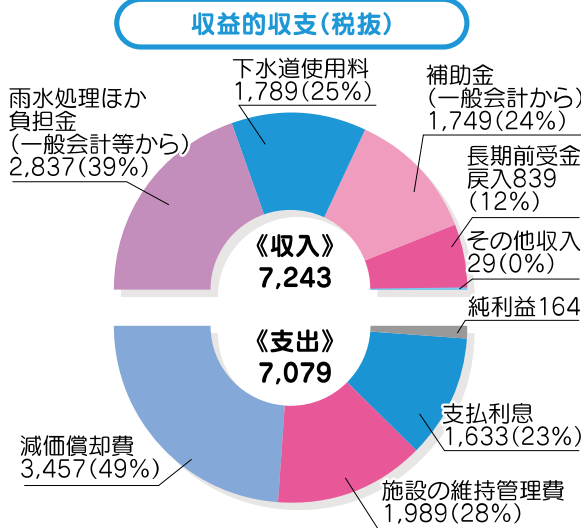
下水道の財政

建設改良事業

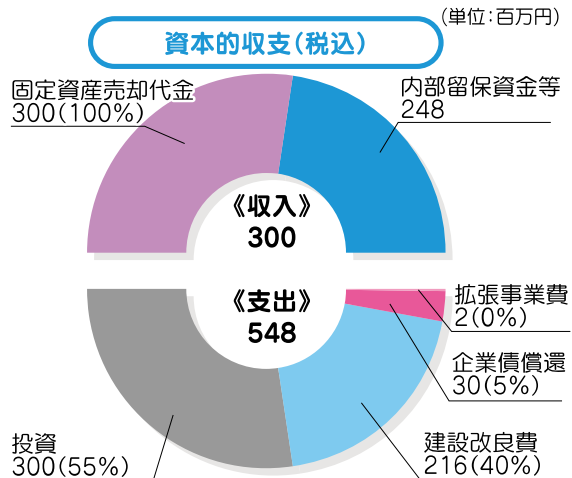
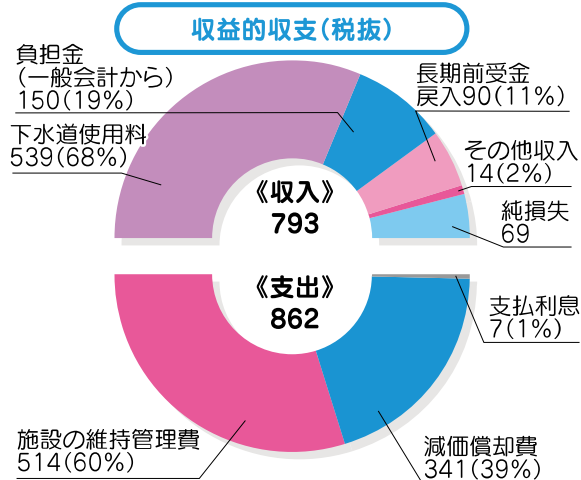
- 単独公共下水道区域では、北園通3、4丁目などの浸水被害軽減のため、北園通貯留槽建設工事を引き続き実施しました。
- 経営の健全化をはかるため、日光川上流及び五条川右岸流域下水道区域において事業費を抑制しました。平成27年度については、大和町苅安賀、萩原町、開明、木曾川町門間、浅野及び千秋町を中心に、幹線及び面整備を実施しました。また、雨水対策として、起地区で雨水渠を布設しました。
- 特定区域では、木曾川町黒田地内ほかで下水道管の更生工事を実施し、下水道管の長寿命化を図りました。
- 西部浄化センター関係では、最初沈でん池流入管改良工事及び最終沈でん池等の汚泥掻寄(かきよせ)機改良工事を行いました。
- 多額の企業債残高を抑制し、経営の健全化を図るため、事業費を抑制して企業債の新規借入を減額しました。また、老朽化した設備の更新を適切に行うため、アセットマネジメントによる資産管理システムを構築しました。

一般区域

(単位:百万円)



特定区域



お問い合わせ先 《経営総務課》 ☎85-7691

下水道整備区域を縮小します

下水道事業の経営状況については、水だより本号の別刷や81号(平成28年2月)でご説明しておりますとおりで、当初予定していましたほぼ全市域に下水道を整備していくことは極めて困難な状態になっています。

これは、

- 平成28年度と同じペースで整備を進めると仮定した場合に、完成までに約65年を要すること
- 下水道事業に投入する資金を増加させることができないこと
- 国は下水道整備をおおむね10年間で完成させる方針で、その後は補助事業を継続する保証がないことによります。

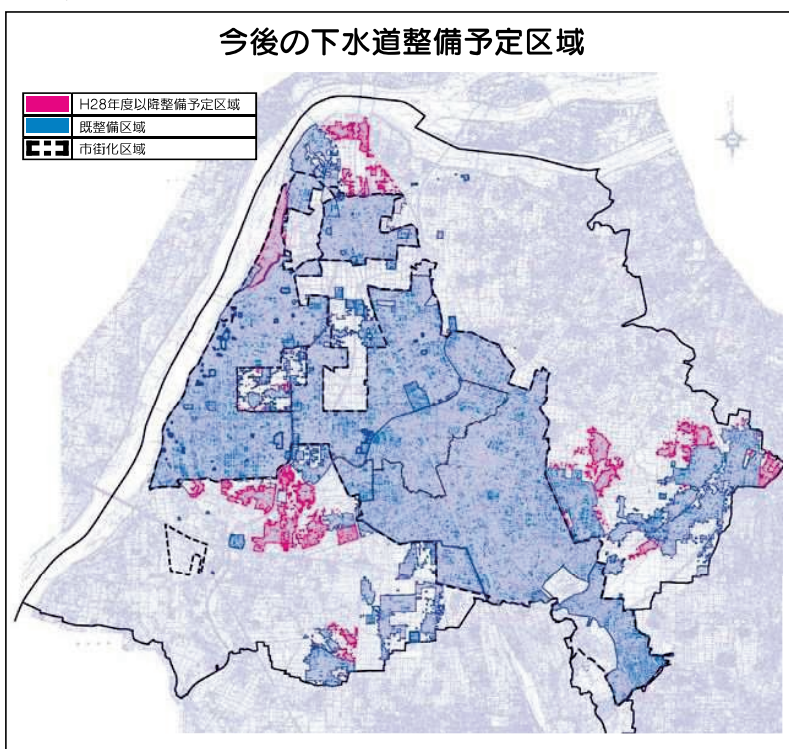
一宮市の下水道事業は大正15年に事業認可を受けて工事に着手していますので、古い下水道管はすでに90年近くを経過しています。下水道管の法定耐用年数は50年ですから、下水道の整備と老朽化対策とを同時に行っていかなければなりません。

こうしたことから、10年間で現実的に整備できる範囲を右図のとおりと考え、下水道整備区域をこの範囲に縮小します。この区域から外れる区域は合併処理浄化槽で汚水処理を行っていただくこととなりますので、ご理解をお願いします。

これまでに下水道事業で行っております都市計画決定などの見直しは、今後、順に行っていきませんが、おおむね3年ほどの期間を要する見込みです。

【一宮市公式ウェブサイト】

市政情報>
政策・計画>
水道>
今後の公共下水道
整備予定について



お問い合わせ先《計画調整課 ☎28—8623》

広告

土木工事・上下水道工事
工事のことなら**当組合員**に
ご用命ください。
親切・丁寧に施工します。
一宮土木協同組合

〒491-0934

一宮市大和町苅安賀

TEL 0586-44-7257

FAX 0586-44-6539



広告

「一宮市水道お客さまセンター」
の業務を担当しています。



業務内容は、電話受付、水道
検針、開閉栓、収納業務です。

どうぞよろしく

お願い致します。

—暮らしの身近で水の未来を考える—

DK 第一環境株式会社 一宮事務所
(一宮市水道お客さまセンター内)

広告の内容等については、広告主に直接お問い合わせください。広告主と上下水道部は直接関係ありません。

平成27年度決算報告

※金額は、表示単位未満の端数を切り捨てています。

水道事業

●貸借対照表

(単位：万円)

	平成27年度	平成26年度
資産の部	4,989,546	5,014,131
固定資産	4,421,755	4,415,027
有形固定資産	4,385,268	4,378,026
土地	61,009	61,009
建物	107,286	112,642
構築物	3,766,721	3,716,431
機械及び装置	237,814	239,736
その他	212,436	248,205
無形固定資産	35,968	36,483
投資	518	518
流動資産	567,791	599,104
現金預金	509,738	519,477
未収金	54,161	75,917
その他	3,891	3,708
負債の部	3,675,762	3,728,781
固定負債	2,290,558	2,354,835
企業債	2,217,244	2,269,805
リース債務	1,138	1,132
退職給付引当金	72,175	83,897
流動負債	273,760	268,018
1年内償還予定の企業債	142,560	136,226
1年内償還予定のリース債務	585	451
その他	130,614	131,340
繰延収益	1,111,443	1,105,928
資本の部	1,313,784	1,285,349
資本金	1,190,740	358,116
資本剰余金	81,839	81,839
利益剰余金	41,204	845,394
負債資本合計	4,989,546	5,014,131

○資産の部

水道管の布設工事などにより有形固定資産は増加しましたが、現金預金、未収金の減少により、平成26年度末から2億4,585万円減の498億9,546万円となりました。

○負債の部

企業債の償還などにより平成26年度末から5億3,019万円減少しました。有利子負債は4億6,226万円減少して235億9,805万円になりました。

○資本の部

平成26年度から地方公営企業に適用される会計基準が変わり、みなし償却制度の廃止などに伴う未処分利益剰余金が83億2,624万円発生しました。この額は平成27年度に資本金に組み入れました。

水道事業の今後の見通し

人口の減少に伴い、配水量と有収水量(料金徴収の対象となった水量)は今後も減少していきますので、水道料金収益も減少します。しかし、平成27年度の減少幅は、平成25・26年度より小さくなっていますので、今後の動きを注視していきたいと考えています。

先の熊本地震では、耐震管には被害がなかったという報告がありました。水道事業は老朽化対策だけでなく、来るべき東海・東南海地震に備えて地震対策を進めていかなければなりません。人口減少時代を迎えて、経営状況は一層厳しくなりますが、水道施設のダウンサイジングも含め、大胆な見直しを行って対応していきます。

（水道事業）

●損益計算書

（単位：万円）

	平成27年度	平成26年度
営業収益	457,634	460,237
水道料金収益	456,071	458,607
その他の営業収益	1,562	1,629
営業費用	430,726	423,239
営業利益	26,907	36,997
営業外収益	52,405	49,483
営業外費用	50,959	52,985
経常利益	28,353	33,495
特別利益	228	225
特別損失	147	42,894
当年度純利益	28,434	△ 9,173
前年度繰越利益剰余金	835,294	11,843
その他未処分利益剰余金変動額	△ 822,524	832,624
当年度未処分利益剰余金	41,204	835,294

○営業利益

水道料金収益が平成26年度より2,536万円減少し、営業費用が7,487万円増加しましたので、営業利益は1億90万円減少しました。

○経常利益

一般会計からの負担金などにより、営業外収益が平成26年度より2,922万円増加し、支払利息の減少により営業外費用が2,026万円減少しました。この結果、経常利益は5,142万円減少の2億8,353万円となりました。

○当年度純利益

平成26年度の新会計基準により、退職給付引当金繰入などの過年度費用が4億2,211万円生じていましたが、平成27年度はこうした費用が発生せず、2億8,434万円の当年度純利益を計上しました。

●キャッシュ・フロー計算書

（単位：万円）

	平成27年度	平成26年度
業務活動によるキャッシュ・フロー	181,641	192,123
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 144,627	△ 216,194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 46,752	△ 17,701
資金増加額	△ 9,739	△ 41,772
資金期末残高	509,738	519,477

○業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益が平成26年度より増加したものの、退職給付引当金の減少などにより、平成26年度より1億482万円減の18億1,641万円の収入となりました。

○投資活動によるキャッシュ・フロー

建設改良工事による支出は平成26年度より2億8,482万円減少しており、下水道工事による支障移転工事負担金などの収入は4億4,591万円増加していますので、支出額は平成26年度より7億1,567万円減の14億4,627万円となりました。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

企業債の借入や償還などを行った結果、4億6,752万円の支出となりました。

○資金期末残高

平成26年度末から9,739万円減少して、50億9,738万円となりました。

下水道事業

●貸借対照表

(単位：万円)

	平成27年度	平成26年度
資産の部	15,066,761	14,987,485
固定資産	14,241,995	14,128,626
有形固定資産	13,452,800	13,325,437
土地	264,254	264,254
建物	258,475	270,530
構築物	11,531,133	11,022,396
機械及び装置	696,535	754,076
その他	702,401	1,014,179
無形固定資産	615,143	624,725
投資	174,051	178,463
流動資産	824,766	858,858
現金預金	756,870	799,514
未収金	50,636	59,278
その他	17,258	66
負債の部	11,857,907	11,838,010
固定負債	7,979,419	8,030,113
企業債	7,912,835	7,960,702
退職給付引当金	65,903	68,278
リース債務	680	1,132
流動負債	716,702	728,941
1年内償還予定の企業債	400,466	374,621
1年内償還予定のリース債務	452	451
その他	315,783	353,868
繰延収益	3,161,786	3,078,956
資本の部	3,208,853	3,149,474
資本金	2,556,408	2,506,497
資本剰余金	312,859	312,859
利益剰余金	339,584	330,117
負債資本合計	15,066,761	14,987,485

○資産の部

下水道管の布設工事などにより有形固定資産は増加したものの、現金預金、未収金の減少により、平成26年度末から7億9,276万円増の1,506億6,761万円となりました。

○負債の部

固定負債、流動負債ともに平成26年度末より減少していますが、国の交付金などを計上しています繰延収益の増加により、負債総額は増加しました。有利子負債は2億2,021万円減少して831億3,302万円になりました。

○資本の部

平成26年度から地方公営企業に適用される会計基準が変わり、みなし償却制度の廃止などに伴う未処分利益剰余金が25億577万円発生しました。この額は平成27年度に利益積立金に組み入れました。

下水道事業の今後の見通し

一宮市の下水道普及率は愛知県平均よりも低く、多くの皆さまが下水道整備を心待ちにされていますが、国が下水道整備をおおむね10年で完成させる方針を示していることから、整備費用のおよそ2分の1を補助している国の社会資本整備総合交付金の採択率が下がっています。

こうした国の動向と、現在の下水道事業の経営状況から、下水道の都市計画決定を行った区域全体の整備を行うことは極めて困難な状況になっており、下水道整備区域の縮小を行うことにしました。当面の10年間で現実的に整備できる範囲を見定め、都市計画決定の見直しを行います。

また、今後、下水道事業は施設・設備の老朽化対策、地震対策にシフトしていきますが、アセットマネジメントによる資産管理システムを活用し、将来にわたって持続可能な下水道事業経営を目指します。

下水道使用料の改定については、次号の水だよりでご説明させていただきます。

上下水道事業の決算書・事業報告書は次のウェブページで公開しています。

【一宮市公式ウェブサイト】

市政情報 > 予算・財政 > 決算状況 > 決算資料 > 決算資料(上下水道)



④（水だより No.84 別刷）

（下水道事業）

●損益計算書

（単位：万円）

	平成27年度	平成26年度
営業収益	338,307	332,174
下水道使用料収益	232,869	232,933
その他の営業収益	105,437	99,240
営業費用	627,581	619,908
営業利益	△ 289,274	△ 287,733
営業外収益	463,645	482,127
一般会計補助金	174,927	180,606
その他の営業外収益	288,718	301,520
営業外費用	166,504	171,376
経常利益	7,866	23,017
特別利益	1,627	21,041
特別損失	26	20,735
当年度純利益	9,467	23,323
前年度繰越利益剰余金	274,846	24,145
その他未処分利益剰余金変動額	△ 207,970	250,577
当年度未処分利益剰余金	76,343	298,046

○営業利益

下水道使用料収益は平成26年度とほぼ同額です。一般会計からの雨水処理に係る負担金の見直しにより増額になったものの、営業損失は1,541万円増加しました。

○経常利益

一般会計からの補助金・負担金を見直したことなどにより、営業外収益が1億8,482万円減少しました。支払利息の減少により営業外費用が4,872万円減少しました。この結果、経常利益は1億5,151万円減少の7,866万円となりました。

○当年度純利益

平成26年度の新会計基準により、退職給付引当金戻入益などの過年度収益が2億462万円、退職給付引当金繰入などの過年度費用が2億376万円生じていましたが、平成27年度はこうした費用が発生せず、9,467万円の当年度純利益を計上しました。

●キャッシュ・フロー計算書

（単位：万円）

	平成27年度	平成26年度
業務活動によるキャッシュ・フロー	301,052	301,851
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 370,821	△ 339,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	27,124	98,836
資金増加額	△ 42,644	61,558
資金期末残高	756,870	799,514

○業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益は平成26年度より減少しましたが、未収金や退職給付引当金の減少などにより、平成26年度とほぼ同額の30億1,052万円の収入となりました。

○投資活動によるキャッシュ・フロー

国からの交付金収入が減少しており、建設改良工事による支出が増加していますので、平成26年度より3億1,691万円増の37億821万円の支出となりました。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

企業債の借入や償還などを行った結果、2億7,124万円の収入となりました。

○資金期末残高

平成26年度末から4億2,644万円減少して、75億6,870万円となりました。

お問い合わせ先《経営総務課 ☎85-7691》